

# 第54回 地域協議会（地域医療支援委員会）議事概要

【日時】令和元年10月10日（木） 19:30～20:30

【場所】人吉医療センター3階 講堂

【出席者】岐部 明廣（人吉市医師会会長）  
山田 和彦（人吉市医師会副会長）  
犬童 裕成（球磨郡医師会理事）  
近藤 浩之（球磨郡医師会副会長）  
清水 雅英（人吉市歯科医師会理事）  
山村 礼二（球磨郡歯科医師会理事）  
河内 謙介（西諸医師会理事）  
村田 圭介（人吉球磨薬剤師会会長）  
劔 陽子（熊本県人吉保健所）  
告吉 眞二郎（人吉市健康福祉部部長）  
原田 和紀（えびの市健康保険課課長）  
有菌 良介（伊佐市総務課課長）  
末次 美代（学識経験者）  
木村 正美（人吉医療センター院長）  
下川 恭弘（人吉医療センター副院長）  
石神 哲郎（人吉医療センター歯科口腔外科センター長）  
入部 直子（人吉医療センター看護部部長）  
作元 功（人吉医療センター事務部部長）  
西山 三智（人吉医療センター総務企画課課長）  
久保田 智子（人吉医療センター総務企画課係長）  
山田 一裕（人吉医療センター医療福祉連携室）  
小田 薫子（人吉医療センター医療福祉連携室）

【欠席者】水間 良裕（伊佐市医師会副会長）

（敬称略 出席 計22名）

## 【概要】

### 一、開会（事務局）

新議員 大島茂樹議員より挨拶

### 二、議題（議長）

#### 1. 登録医承認

新規登録 1名、登録医削除 2名

→全会一致で承認

#### 2. 要望・ご意見（人吉市医師会）

<人吉市>

・岐部議員

2-①輸血用血液備蓄医療機関における備蓄の廃止について、緊急時の血液製剤の融通が可能か？とそのシステムについて。

作元議員：地域医療を守るためには当院で何とかしなければいけないということはわかるが、法律で定められている以上血液製剤の融通は困難である。

岐部議員：婦人科医師からお産の時が心配ということでの質問であり、地域住民の安全という観点から人吉市の協力はできないか。

告吉議員：一度人吉市へ相談にこられたが、備蓄する設備もないため自治体のみで対応をすること

は難しい。

作元議員：日赤が1日2回まわっており、夜間も1時間では対応をするという回答はあっている。大量出血をした患者さんがいた場合、当院への搬送などの検討も。

木村議員：宮崎はどうですか？

河内議員：昔は当院で対応していないが、現在は対応していない。

木村議員：県によってはこれまで通り対応をしているようである。

山田議員：薬局には置けるのか。将来の問題として、24時間の在宅医療を行うとなった時、薬が無いといけなため24時間対応の薬局がいるのではと言われおり、薬機法上調剤薬局で備蓄が可能であれば、日赤や熊本県と交渉し、熊本県全体で話し合っていく必要があるのではないか。

村田議員：薬局としてはおけないことはないが、血液を払い出したという話はない。今の熊本県のシステムで空けることは可能。

岐部議員：地域医療のレベルを守るという観点からも、人吉市医師会からも相談していきます。

3-①救急医療等で、外科系の先生方が非常に忙しいので、仕方のないことかもしれませんが、紹介した患者さんの手術所見・摘出標本の病理の返事のないことがある。(かなり遅れて返事がくることもある)手術所見や病理の返事は、可及的に早くお願いしたい。

木村議員：連休などが挟まると病理の結果が遅くなっている状況はある。医師としては手術所見、病理の報告を行っていないという認識はなかった。

3-②人吉医療センターの勤務医の先生も人吉医師会に加入してほしい。

木村議員：熊本県医師会に入っている先生方はいる。病院で医師会費を払うことも難しい状況。

岐部議員：県医師会から会員を増やしてほしいとの依頼もあった。

山田議員：研修医は会費はいらぬはず。研修医だけでも入れて頂ければ。入ってもらって医師会とはどういうものかということを知って頂ければ。

木村議員：検討していく。

3-③熊本県医師会「勤務医部世話人」を人吉医療センターから出して頂きたい。

岐部議員：県医師会から人吉市医師会から依頼がありました。多くの医師会がその地域の基幹病院の先生が出られている。可能であれば医療センターから一人出して頂きたい。

木村議員：検討していく。

3. 公立・公的病院再編報道について

※資料を一読。

岐部議員：西諸地域の状況はいかがか。

河内議員：データが不足している場合もあると聞いている。小林などの近隣医療機関などとも検討をする予定になっている。今後については組長の意向になっていくと思われる。

大島議員：おそらく当院もデータ不備があったと考えている。機能分化や集約化などは検討していく必要があると思うため、良い機会と捉え、今後について検討していく必要があると考えている。

木村議員：地域医療構想があまり進んでいないという考えから出したデータではないかと考えている。地域医療についても自分たちで考えてやっていかななくてはならないと思う。

4. 地域医療構想調整会議の進捗状況

岐部議員：政策医療を担う病院それぞれの情報提供が終了した。今後、高度急性期、急性期慢性期などどうしていくか考えていく必要がある。私の印象では朝日会の介入により球磨病院が急性期になってしまうと地域医療構想そのものの議論に一貫性がなくなってしまうことを懸念している。話し合いが上手くできていない状況がある。

劔議員：朝日の会のトップが出ないため、議論が進まない状況は確かにある。鹿児島県の方が力を入れて取り組まれていると伺っているため、またの機会に話を聞ければ。

木村議員：今後も継続して意見交換できればと考えている。

#### 5. 在宅サポートセンターとして ACP の推進

事務局：2019年3月より在宅サポートセンターに指定された。任意項目であるアドバンスケアプランニングについて報告。本年4月にACP普及活動を行うためACPチームを立ち上げ、ACPシートの作成や市民公開講座などで寸劇を行っている。9月19日に医療介護者向けの研修会を開催し、100名程の方に参加いただいた。11月27日に人吉市と共同で市民公開講座・イベントを予定している。

#### 6. 三県連携災害訓練

下川議員：消防応援協定に基づき、熊本県と宮崎県、鹿児島県で連携し3月27日（土）に合同災害訓練を実施予定となっている。

#### 7. 専門医制度のシーリングについて

#### 8. 来年度研修医マッチング中間発表について

木村議員：専門医制度のシーリングについて中間発表があり、熊本県は少なかった。

事務局：熊本県には現在14病院研修可能病院ある。熊本県を希望している学生が78名いたが熊本県では142名の枠があるため希望が少ない印象あり。最終発表は後日の予定。

#### 9. 働き方改革について

事務局：JCHOでは全職員のワークライフバランスの充実を目標としている。当院では患者ファースト、医療の質・安全、業務・経営の改善、職員の満足向上、地域連携などをキーワードに目標を設定。具体的な改善内容として超過勤務の削減、職員満足度調査、年次有給休暇の取得の推進を掲げている。

木村議員：働き方改革に伴い、救急医療がどうなっていくのかという懸念がある。

岐部議員：救急というのは、はたき方改革を進めていくと救急医療は破たんしていく。この地域の救急医療を守っていくためには、行政も含め検討をしていく必要がある。

#### 10. その他

##### \*くまもとメディカルネットワーク

事務局：参加者・同意取得は県内で現在3位。参加機関も増えている状況にある。開業医の先生方には電子的診療評価加算（30点）が取れるようになる。そのためには施設基準届が必要。現在、熊本県の補助金があるため、加入されていない機関についてはぜひ加入検討を。熊本県医師会にて外部の検査機関とデータ連携が出来ないか検討中である。介護施設や行政についても周知を行っていく予定。西諸や伊佐についても補助金はないが利用登録は可能である。

## 五、閉会